

東京湾と津波

ひがたかんタイラーズ

2012年3月1日発行
第21号
大師河原水防センター運営委員会
発行人／小東茂

東日本大震災から一年が経つ。震災以降、津波に対する被害軽減が各地で検討されている中、マグニチュード(M)七クラスの首都圏直下型地震が四年以内に70%の確率で起こると東京大学地震研究所が発表し、切迫感が高まっている。このような大地震が発生した場合、これまで津波の影響を受けにくいとされていた東京湾に面する川崎市や横浜市なども想定の倍近い4mの高さである。記録が残っているものによれば、一九二三年(大正十二年)の

の津波に襲われる可能性があり、そ

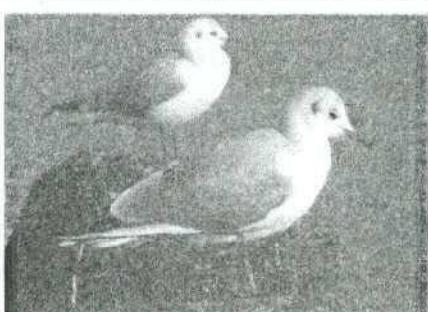
の水が多摩川や鶴見川を遡り、住宅街にまで浸水被害が及ぶ危険性も考えられるという報告が神奈川県から出された。県の津波浸水想定は一六〇五年に発生した、詳細は不明ながら房総から九州まで津波が押し寄せたとされる慶長地震を想定し、規模を引き上げて試算されたもの

が、その中で更に様々な課題が浮かび上がり、見直しが必要となってきた。もし、首都圏直下型地震が起これば津波警報や注意報が発令されたら直ちに高台へ避難する。結局のところ、津波対策としてはこれに限るが、同時に家屋倒壊や火災等の災害が発生することを頭に入れておかねばならない。生きるために、愛する人を守るために、そのときあなたはどういう行動をとるのか?



人工衛星ランドサットから見た東京湾

関東大震災では河川の堤防が崩れた箇所はあつたものの、東京湾からの津波による陸地への被害はほとんど無かつたという。東京湾は湾口部が狭く水深が浅いため、外洋からの津波が発生する可能性は低いとされることは、深く考へ、備えることに越したことはない。多摩川でも、昨年の十月中旬に実施された平成二二年度東京都総合防災訓練に併せて、国土交通省京浜河川事務所が管理する河口部において、2mクラスの津波を想定した水門操作の訓練を行った。このよくな取り組みが各地で行われているが、その中で更に様々な課題が浮かび上がり、見直しが必要となってきた。もし、首都圏直下型地震が起これば津波警報や注意報が発令されたら直ちに高台へ避難する。結局のところ、津波対策としてはこれに限るが、同時に家屋倒壊や火災等の災害が発生することを頭に入れておかねばならない。生きるために、愛する人を守るために、そのときあなたはどういう行動をとるのか?



第21回

文・写真 佐川麻理子

千鶴のゆかいな仲間たち



仲間の中で一番多く目にするのはこの「ユリカモメ」かもしれません。毎年冬が近づくと

大群でここ多摩川河口にやってくるのが恒例ですが、今年はやや数が少なく感じる気になります。人からえさをもらことに慣れてしなっているのも、すこし残念な気がしますが、それでも身近な野鳥として多くの人から親しまれています。人と距離をとるのが多い鳥の中で、すぐそばで観察ができる鳥のひとつです。また、春から初夏にかけてもいるユリカモメは、顔の色が変化する様子が見られます。赤いくらいに真っ白い羽色の頭が、暖かくなるにつれてまるでマスクをかぶったようにだんだんと真っ黒になつてい

きます。ある時、胸に釣りのルアーが刺さっている一羽のユリカモメが河原で見つかりました。鳥好きな人たちがアミで捕獲し、ポランティアで治療してくれる獣医師さんの手により一命を助けられましたが、一部の心無い人の行為が自然の仲間たちの暮らしに災難を振りかけている事もあるのです。

【新連載】大師河原歴史抄

文 渡辺修策

一、思案橋

思案橋と聞くと最初に思い浮かぶのは長崎の思案橋であるが、その昔大師河原にも思案橋があった。京急大師線東門前駅を出て左に向かうと、すぐ国道四〇九号の交差点にぶつかる。ここを直進すると六郷川の堤防につきあたり、昔そこに大師の渡しがあった。この交差点には大師河原用水の排水を集めた江川が海へと流れ、駅前からの道には小さな土橋が架かっていた。この橋から先の小道は田畠が点在するだけで両側には大人の背丈程の葭原が土手迄続いた。通るのは渡しを利用しなかった。通るのは渡しを利用

する人程度で日中も人影少なく夜には狐や狸が出ると噂され、昼過ぎてから羽田に行く人達は帰りが遅くなり、日が暮れてからこの道を通り狐に化かされるのも厭だなど、橋迄来るとこれから羽田迄行こうか明朝早めに行こうかと思い悩み、思案したところから思案橋と呼ばれるようになつたと言う。その後この土橋も石橋に変わり、戦後の道路整備により姿を消した。(参考資料:川崎市史・大師百年)

★多摩川桜のコンサートのお知らせ

かわさき多摩川博2012・第八回多摩川桜のコンサートが開催されます。出演は、Style-3、稻田中学校チアダンス部、animo、湊愛子とゆかいな仲間たちです。

○日時／4月7日（土）13時～16時

○会場／一ヶ領せせらぎ館前広場

○入場無料（※雨天の場合は館内）

○主催／川崎市建設総務局多摩川施策推進課・NPO法人多摩川工コ

ミュージアム

○問い合わせ／NPO法人多摩川工コ

ミュージアム

メール npo@seseragikan.com

川崎市建設総務局多摩川施策推進課

044(200)2268

大師河原干潟館（水・土・日・祝）

7882

大師河原干潟館イベント情報

3月3日（土）エコクラフト教室
自然素材で色々なものをつくろう！

3月17日（土）だいし水辺の楽校
ひがたんけんと野草の観察会

4月7日（土）エコクラフト教室
場所／千潟館 時間／10時～12時

4月21日（土）だいし水辺の楽校
場所／千潟館 時間／開館中

平成24年度開校式と千潟観察会
場所／千潟館 時間／10時～12時

4月21日（土）だいし水辺の楽校
場所／千潟館 時間／開館中

4月21日（土）だいし水辺の楽校
場所／千潟館 時間／開館中

4月21日（土）だいし水辺の楽校
場所／千潟館 時間／開館中

※「だいし水辺の楽校」の参加費（保険代など含む）は200円です。定員30名となっておりますので、参加希望の方は事前に申し込みが必要となります。

※千潟に下りる場合は、サンダル・素足は禁止です。長靴や汚れてもいい靴をご用意下さい。

※イベントは天候や諸事情により中止したり、内容・時間を変更することがあります。

○問い合わせ・申込先

川崎市建設総務局多摩川施策推進課

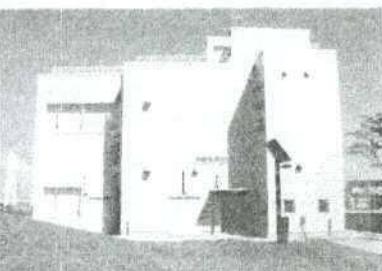
044(287)7882 Fax: 044-287-7883

◆お問い合わせ（水・土・日・祝）／大師河原干潟館
Tel: 044-287-7882 Fax: 044-287-7883

◆お問い合わせ（平日）／川崎市建設総務局多摩川施策推進課

Tel: 044-200-2268 Fax: 044-200-7703 Email: 53tamamu@city.kawasaki.jp

<http://www.tamariver.info/higatakan/>



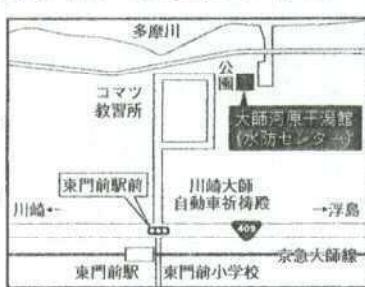
ひがた 大師河原干潟館（大師河原水防センター）

大師河原干潟館は、多摩川の自然や地域の歴史、河川防災などについての情報発信・環境学習の市民活動拠点です。多摩川初の河川防災基地・大師河原河川防災ステーション内にある大師河原水防センターの一部を利用し、市民グループで構成する運営委員会が管理・運営を行っています。

- ◆開館日／水・土・日・祝日 10:00～16:00
- ◆アクセス／京浜急行大師線「東門前駅」下車、徒歩7分
〒210-0811 川崎市川崎区大師河原1-1-15

※駐車場はございませんので、来館には公共交通機関をご利用下さい。

入館無料
生きものカードプレゼント中！





ひがたかんタイムズ

2012年 6月 9日発行 <第22号>

大師河原水防センター運営委員会 発行人：小泉 茂

私たちの身近な「多摩川」。しかし意外に私たちは多摩川のことを見知らぬことが多いのでしょうか。

「多摩川ってどこから流れてくるの?」「多摩川の水って私たちの飲み水?」「洪水って、どれくらいの雨が降ると起きるの?」などなど。ひがたかんタイムズでは、こんな多摩川の疑問やふしぎを少しずつお話ししていきたいと思います。

ふしぎその1 多摩川ってどこから流れてくるんだろう?

多摩川の全長は138Km。源流と言われているのは、山梨県の塩山（現甲府市）の笠取山というところです。ここから奥多摩湖までV字の形をした深い谷を削るように水は流れていきます。このあたりの川の中には、岩魚（イワナ）や山女（ヤマメ）など水温が低くて澄んだ水を好む魚がくらしています。夏の暑い日に手を入れてみると、その冷たさにきっと驚くことでしょう。

やがて川は奥多摩湖に流れ出します。奥多摩湖は第二次大戦以前から計画され、昭和32年に竣工されたダム湖です。現在は主に利根川水系から水を得ている東京都ですが、以前はこの奥多摩湖に多く依存をしていました。

やがて大きな小河内ダム（高さ148m）を経て、川はまるで扇の要のような位置の青梅の街から、広い扇状地へと流れていきます。（次号へ続く）

ひがた
干潟のゆかいな

仲間たち

第22回 カルガモ

文・写真 佐川麻理子



初夏を迎えた多摩川河口。多くのカモたちが北国に帰って夏鳥たちと入れ替わるこの季節に、カルガモのヒナが産れます。

カルガモはカモの仲間でも北国への渡りをせずに、ほぼ一年を通して多摩川でも見られます。そして、産卵と子育ては5月末から7月はじめにかけて。

早くは春の初めにオスメスのカップルができ、やがて初夏には母ガモに連れられた小さなヒナを見ることができます。アシ原のまわりをピヨピヨと鳴きながら隊列をつくって、母ガモのあとを懸命についていく姿はとても愛くるしく、多くの人の目を引きつけます。多い年には、ここ多摩川河口付近でも、十組ほどの親子を確認することができますが、残念なことに、うまくおとなになれる子ガモはその中のほんの一部です。

他の生きものたちがそうであるように、小さなヒナたちには危険がいっぱい。なかには子育てを何かの理由で放棄してしまう親ガモもいます。それでもカルガモの子育てはやっぱり人々の人気者。河原を訪れた時には、ぜひ彼らを探してみてください。

【連載】大師河原歴史抄

文 渡辺修策

二、大師河原

現在の地図で大師河原を見ると、一丁目、二丁目だけの約一、八四平方kmの狭い範囲でしかないが、昔は広かつた。

明治二十二年から大正十二年の町制施行で大師町になるまでの「大師河原村」は、江戸時代の四ヶ村（大師河原村、川中島村、稻荷新田、池上新田）に含まれる川中島、中瀬、西、本村、藤崎、遠藤野、台、塩浜、北東、南東、上殿町、下殿町、江川、田町、出来野、四谷、池上新田の十七地区を含んでいた。

江戸時代の大師河原村でも新編武藏風土記稿には、「東はすべて海岸にそび、西は中島村に交わり、南は大島村池上新田に界、北は稻荷新田に隣れり、広狭は東西十七町（一、八五km）南北十八町（一、九六km）許とあり、今の二倍ほどの面積があつた。

大師河原が文献に現れるのは、北條氏康の「北條家分限帳」に、六郷大師河原とあるのが初出で、当時の多摩川は南流としていて大師河原は六郷、羽田と地続きであった。

現在の位置に変わったのは、家康の関東入府直前の二年間に及ぶ大洪水による（参考資料・川崎市史、小塚光治川崎史話）

=お知らせ=

落雷や増水に注意して！

- ★入道雲を見たり、雷の音が聞こえたら屋内など安全な場所に入りましょう。
- ★突然の大雨が降ったらすぐに川から離れましょう。急な川の増水に注意！

★第5回「エコカッパーいかだくだり」

ペットボトルや資源ごみを利用したいかだをつくって多摩川を下ります。

日時：9月2日（日）

場所：登戸 二ヶ領せせらぎ館前

参加募集期間：6月1日から6月26日

主催NPO法人多摩川エコミュージアム

☎044-922-1025

川崎市建設緑政局多摩川施策推進課

☎044-200-2268

だいしかわらひがたかん ☆大師河原干潟館イベント情報

◆7月7日（土）エコクラフト教室

◎自然素材で色々な物を作ろう！

場所：干潟館、時間：開館中

◆7月21日（土）だいし水辺の楽校

◎ひがた観察会

場所：殿町干潟周辺 時間：10時～12時

参加費：200円（保険代含む） 定員：30名

服装：長ぐつや汚れても良い靴（サンダル禁止）

※イベントは天候や諸事情により中止したり、内容・時間を変更することがあります。

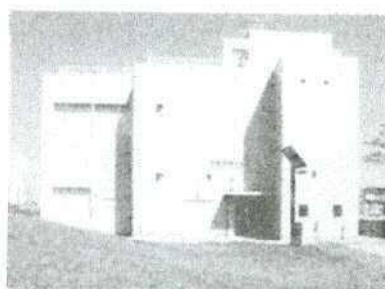
◎問合せ・申込先

川崎市建設緑政局多摩川施策推進課

☎044-200-2268

大師河原干潟館（水・木・土・日・祝）

☎044-287-7882



大師河原干潟館（大師河原水防センター）

大師河原干潟館は、多摩川の自然や地域の歴史、河川防災などについての情報発信・環境学習の市民活動拠点です。多摩川初の河川防災基地・大師河原河川防災ステーション内にある大師河原水防センターの一部を利用し、市民グループで構成する運営委員会が管理・運営を行っています。

◆開館日／水・土・日・祝日 10:00～16:00

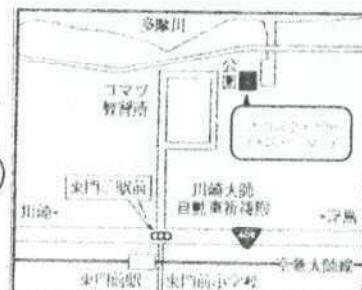
◆アクセス／京浜急行大師線「東門前駅」下車、徒歩7分

〒210-0811 川崎市川崎区大師河原1-1-15

※駐車場はございませんので、来館には公共交通機関をご利用下さい。

入館無料

生きものカードプレゼント中！



◆お問い合わせ（水・土・日・祝）／大師河原干潟館

Tel : 044-287-7882 Fax : 044-287-7883

◆お問い合わせ（平日）／川崎市建設緑政局多摩川施策推進課

Tel : 044-200-2268 Fax : 044-200-7703 Email : 53tamamu@city.kawasaki.jp

<http://www.tamariver.info/higatakan/>

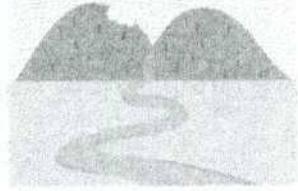
ひがたかんタイムズ



2012年 8月 17日発行 <第23号>

大師河原水防センター運営委員会 発行人: 小泉 茂

私たちの身近な多摩川について6月号から掲載していますが、
今月も「多摩川のふしきその2」をお届けします。



ふしきその2 多摩川ってどんなところを流れているの?

奥多摩湖から流れ出た多摩川は小河内ダム、白丸ダムを経てやがて「御岳渓谷」に。このあたりは、ハイキングや紅葉散策、渓流釣りや、更には美術館探索など、見どころ遊びどころたくさんあります。訪れた人は、ここが東京都であることを忘れてしまうほど、自然が豊かな所です。交通の便もJR中央線がほぼ川に沿っているため、比較的よく誰でも手軽に楽しめます。ぜひ一度は訪れてみて下さい。

やがて川は青梅から広い扇状地となった土地を、今までとはやや違った、ゆったりとした流れで立川、府中、調布、狛江、と流れていきます。このあたりの川の中には、アユやウグイ(ハヤ)やオイカワなど清流を好む魚が多くくらしています。また河原の様子も広がりを見せ、周りも住宅やビルなど人の暮らしが色濃くなるのもこのあたりからです。

多摩川の水を東京都に供給する「羽村取水堰」で集められた水は、新宿の四谷までの43kmを、高低差を利用して武蔵野台地を流れ下って運ばれます。

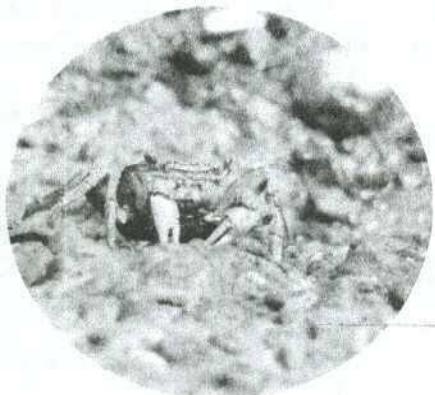
実は私達川崎市民は多摩川の水を飲料水として利用していません。山梨県の富士五湖の一つ山中湖の近くを源とした相模川や、神奈川県の屋根と言われている丹沢山地から流れ出る酒匂川などの水を飲んでいます。

天気の良い日に遠く西の方を見ると、その山々が連なる様子がここ川崎の街からも望めます。(次号へ続く)

ひがた
干潟のゆかいな
仲間たち

第23回 カクベンケイガニ

文・写真 佐川麻理子



ここ多摩川河口には、多くの種類のカニたちがくらしていますが、その中でも比較的数が少なく、カニファンが見つけるとショットうれしくなるカニの中の一つにカクベンケイガニがあります。

大きさは甲らが2センチほどのものがよく目につきます。やや緑色がかった体に、黒い不規則な模様があり、岩の間にいたらとても見つけにくくなりそうです。よく見ると足には短い毛が生えています。エサは魚の死がいやゴカイや他の小さな生き物など。よく似たクロベンケイガニがアシハラのまわりや土手などに多くくらしているのに対して、カクベンケイガニは石積みの護岸やブロックのまわりなど、人工的な所によく見られます。

人の気配を感じると、すぐに石の間に逃げ込んでしまうため、なかなか捕まえることができません。

本来は自然の岩のまわりが好きなはずですが、多摩川河口のような都会の自然の中では、こんな人が手を加えた所をちゃっかり利用している生きものがいます。

【連載】大師河原歴史抄

文 渡辺修策

大師河原干潟館の建つ場所は、江戸時代、稻敷地の東南側には村年寄・石渡四郎兵衛家の屋敷が広がり、屋敷内には江戸名所図会に画かれた「末広の松」が生えていた。稻荷新田村は、寛永二年（1625）より池上幸広の隣接海辺寄洲100町歩を自費開発し、寛永二年（1624）～（1643）に完成させた「大師河原新田」を、後に新田開発に御利益あつた川中島村稻荷（現中瀬の大師稻荷）の名を取つて稻荷新田と改称した。稻荷新田村は、池上七郎左衛門幸繁家系を代々名主とする七左衛門組（七稻荷）と、石渡四郎兵衛甥・石渡六郎左衛門を名主とする六郎左衛門組（六稻荷）（四郎兵衛家は代々年寄を襲名）とに分かれて支配されたが、行政的には一村であつた。二つの組によつて支配された村につき、主に池上家が開発した新田が七稻荷「大師河原新田」と呼んでいたものを、元禄十年（1697）織田越前守検地時、開発新田一帯を整理することにより稻荷新田村ができたのではないかという説もある。江戸時代の区分は、六稻荷（上殿町、下殿町、江川町）、七稻荷（田町、出来野、南東の一部）である。この稻荷新田の名も、明治八年の大師河原村との合併により消えた。参考資料：川崎市史、新編武藏風土記稿、稻荷新田考（熊谷義夫）

=お知らせ=

★千潟館開館日について

9月中は、水・木・土・日・祝祭日
10月からは、水・木・土・日・祝祭日
となりますのでご了承ください。

★第5回「エコカップいかだ下り」

ペットボトルや資源ごみを利用した
いかだをつくって多摩川を下ります。

日時：9月2日（日）

にかりょう

場所：登戸二ヶ領せせらぎ館前

※大師河原干潟館からも一艘参加します

主催：NPO多摩川エコミュージアム

☎044-922-1025

川崎市建設緑政局多摩川施策推進課

☎044-200-2268

★消防団操法訓練

臨港消防団第1分団による訓練が、千潟館前の広場で行われます。ぜひ見学してください。

日時：8月26日（日）、9月2日（日）

いずれも午前9：00からです。

☆大師河原干潟館イベント情報

◆9月29日（土）だいし水辺の楽校

◎ハゼ釣り教室

場所：千潟館内と千潟 時間：13時～16時

参加費：200円（保険代含む） 定員：30名

服装：長ぐつや汚れても良い靴（サンダル禁止）

※マイカップと箸（届にハゼ天ぷら作ります）

※イベントは天候や諸事情により中止したり、
内容・時間を変更することがあります。

◎問合せ・申込先

川崎市建設緑政局多摩川施策推進課

☎044-200-2268

大師河原干潟館（水・木・土・日・祝）

☎044-287-7882

大師河原干潟館（大師河原水防センター）

大師河原干潟館は、多摩川の自然や地域の歴史、河川防災などについての情報発信・環境学習の市民活動拠点です。多摩川初の河川防災基地・大師河原河川防災ステーションにある大師河原水防センターの一部を利用し、市民グループで構成する運営委員会が管理・運営を行っています。

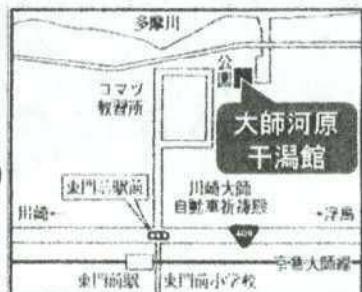
◆開館日／水・土・日・祝日 10:00～16:00

◆アクセス／京浜急行大師線「東門前駅」下車、徒歩7分
〒210-0811 川崎市川崎区大師河原1-1-15

※駐車場はございませんので、来館には公共交通機関をご利用下さい。

入館無料

生きものカードプレゼント中！



◆お問い合わせ（水・土・日・祝）／大師河原干潟館

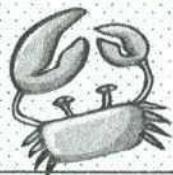
Tel : 044-287-7882 Fax : 044-287-7883

◆お問い合わせ（平日）／川崎市建設緑政局総務部多摩川施策推進課

Tel : 044-200-2268 Fax : 044-200-7703 Email : 53tamamu@city.kawasaki.jp

<http://www.tamariver.info/higatakan/>

ひがたかんタイムズ



2012年 10月 19日発行 <第24号>

大師河原水防センター運営委員会 発行人：小泉 茂

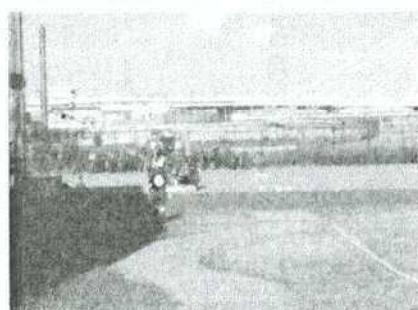
「大師河原水防センター大師河原干潟館」の役割は？

「大師河原水防センター」は、多摩川の氾濫等による災害時には、施設内の資機材を利用し、応急復旧活動を行うための拠点施設・河川防災ステーションとしての機能を発揮します。平常時は、多摩川や干潟に関する環境や周辺の歴史等についての情報提供や展示等の活動拠点として「大師河原干潟館」の愛称で親しまれ、市民ボランティアにより管理運営をしています。

管内に展示している水槽のカニやハゼ、うなぎ等を見たり、毎月開催の「エコクラフト」「水辺の楽校」への参加や、学校や各種団体が環境学習の場として活用され、開館5年目で4万人以上の方が訪れて下さいました。



多摩川上流から流れてきた水は東京湾に注ぎ、流れによって運ばれた泥や砂が河口付近にたまって干潟が出来上がります。大師河原干潟館はこの河口干潟の近くに位置



し、アシハラが発達し多くの生きものたちが暮らす最適な場所となっています。最近は干潟の埋め立てなどで減少している干潟の中で、多摩川河口干潟は大都市の中に残された奇跡の場所とも言えます。

また水防センターとして日頃は地元の消防団の水防訓練にも活用されています。東日本大震災で活躍した地元消防団の献身的な姿が思い出されますが、ここでも「いざ出動！」に備え訓練が行われています。

ひがた
干潟のゆかいな
仲間たち
第24回
文・写真 佐川麻理子



チヨウゲンボウ

生きものたちの営みが豊かなここ多摩川河口では、ときおりワシやタカの仲間である猛禽類を見ることができます。

チヨウゲンボウもそのひとつです。

オスは約33cmメスは約38cmとやや小ぶりな体ですが、野ねずみや小鳥など小さな生きものを高い空からねらい、ひらひらと羽ばたいたかと思うと、一気に降下してとらえて餌食する様子は、まさに猛禽類の貴録があります。

本来は切り立った断崖などのまわりで生活する鳥ですが、ここ多摩川など都会の中ではマンションや工場プラントなど、高い建物にちゃっかり止まっている様子が見られます。

特に秋から冬にかけては、高いところにポツンと止まっている彼らに会えるチャンスがある季節です。

【連載】大師河原歴史抄

文 渡辺修策

四、夜光町あれこれ

夜光町の話というと、有名なのは川崎大師緑起であろう。緑起によれば、平安時代、平間兼豊、兼乗と言う武士の親子が尾張国を追われ、川崎の地に住み着き漁師をしていた。兼乗四二歳の厄年に、高僧が夢枕に立ちお告げを受けた。翌夜、海上を見渡すとお告げ通りに光を放つ所があり、船を寄せ網を入れると、昨夜見た高僧の尊容の木像が出現した。この像は弘法大師の像で、兼乗は一堂を建立しこの像を安置し奉った。

平間兼乗が開基した寺なので平間寺と号し、大師像が出現した場所なので大師河原と名付け、大師像が海中で光り輝いていた場所を夜光町と名付けた。というものであるがその他にも、昔、大師河原に漁師の父と娘の貧しい親子が住んでいた。父親が夜漁に出たときは、娘は必ず浜辺の松の木の下で松明を振り、父親はその灯を目当てに戻つて来るのが常であった。

ある冬の強風が吹く夜、娘はいつものように松の木の下で松明を振り父の帰りを待つていたが、父はいつこうに戻つて来なかつた。やがて雪も舞い始め風も一段と強くなり、娘は大声で父の名を呼びながら松明を振り続け帰りを待つたが、父は戻つて来ずやがて娘は力尽き凍え死んでしまつた。父は遭難し死んでいたのだった。それ以後夜になると松の木がボーッと光り輝くようになり、村人達はその松の木を「不知火の松」と呼び、松のあたりを「夜光」と呼ぶようになつたといふ話も伝わっている。

(下段に続く)

また、鶴見区矢向にも昔多摩川が氾濫し、付近一帯が水没しなつた折、夜中に水で光を放つ所があり、そこから村人が白衣観音を見つけ出し村の最願寺に奉祀した。以来そのあたりを「夜光町」と呼ぶようになったが、いつの頃からか「矢向町」と表記するようになった、と言ふ話も残つてゐる。

参考資料：「弘法大師略緑起」平間寺、
「大師河原誌」私立東門前小学校刊

☆大師河原干潟館イベント情報

◆10月27（土）みずウォーク2012

大師河原干潟館前の広場で開催されます。

大師河原干潟館は、干潟紹介と多摩川の歴史ガイドとして協力します。物産展もありますので、遊びに来て下さい！

◆11月17日（土）秋の野草やカニの観察会

場 所：殿町干潟から大師河原周辺 時間：10時～12時

参加費：小学生以上 200円(保険代含む) 定員：30名

服 装：長ぐつや運動ぐつなど歩きやすい支度で

持ち物：タオル、飲み物、雨具、帽子など

※イベントは天候や諸事情により中止したり、内容・時間を変更することがあります。

◎問い合わせ・申込先

大師河原干潟館(水・土・日・祝) ☎044-287-7882

川崎市建設総務局多摩川施策推進課 ☎044-200-2268

だいし水辺の楽校 www.tamariver.info/daishi

担当:佐川 090-2492-5480

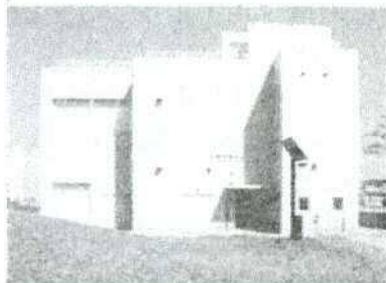
大師河原干潟館(大師河原水防センター)

大師河原干潟館は、多摩川の自然や地域の歴史、河川防災などについての情報発信・環境学習の市民活動拠点です。多摩川初の河川防災基地・大師河原河川防災ステーション内にある大師河原水防センターの一部を利用し、市民グループで構成する運営委員会が管理・運営を行っています。

◆開館日／水・土・日・祝日 10:00～16:00

◆アクセス／京浜急行大師線「東門前駅」下車、徒歩7分
〒210-0811 川崎市川崎区大師河原1-1-15

※駐車場はございませんので、来館には公共交通機関をご利用下さい。



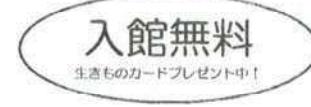
◆お問い合わせ（水・土・日・祝）／大師河原干潟館

Tel : 044-287-7882 Fax : 044-287-7883

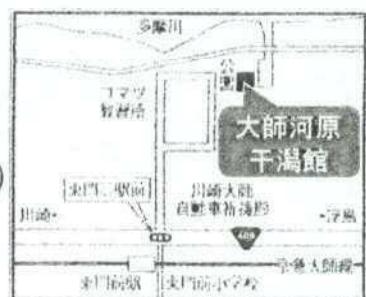
◆お問い合わせ（平日）／川崎市建設総務局多摩川施策推進課

Tel : 044-200-2268 Fax : 044-200-7703 Email : 53tamasu@city.kawasaki.jp

<http://www.tamariver.info/higataken/>



生きものカードプレゼント中！



ひがたかんタイムズ



2012年 12月 21日発行 <第25号>

大師河原水防センター運営委員会 発行人：小泉 茂

■多摩川のふしき その3

多摩川が中流から下流にさしかかると、今まで緑豊かな渓谷や田畠に囲まれた地域からうって変わって、住宅や工場が並ぶ大きな街の中を流れるようになります。

かつて多摩川は都市から排出される生活排水や工場排水にさらされ、激しい環境破壊を経験しました。

ほとんど垂れ流しにされた生活排水で川面に洗剤の泡があふれることも。しかし今では下水処理の整備や公害の改善により、清流の女王といわれるアユがくらすほど水質が良くなりました。そのため登戸にある「二ヶ領宿河原堰」には魚たちが川をさかのぼるように「魚道」がつくられています。このあたりは浅く流れのはやい「瀬」と、深くゆったりとした流れの「淵」がくりかえされ、アユをはじめ淡水の魚たちには絶好の住処となります。

また、周辺の河原には都会では貴重な緑豊かな自然が広がります。ただこれらの植物の中には、もともと日本に生息している種類だけではなく、最近外国から入り込んだ「外来種」が目立つのも気になります。

やがて川は東横線の鉄橋の付近にある「調布取水堰」を下り、海水が混ざりこむ汽水域へと流れていきます。



ひがた
干潟のゆかいな
仲間たち
第25回
文・写真 佐川麻理子



アオサギ

干潟に突然現れる大きな鳥。グワーンと大きな声で鳴いたかと思うと、また羽を広げて飛び去っていきます。初めて見た人はきっと驚くでしょう。

アオサギは干潟で出会える鳥の中でも最も大きな鳥の一つかもしれません。約90cmもある背丈。羽を広げると150cm以上の幅があります。名前はアオサギですが全体には白い首と灰色の羽色です。

ここ多摩川河口ではほぼ一年を通じて観ることができます。大好きなエサはもちろん魚。長い脚を上手に使ってコイやボラなど、やや大型の魚を食べます。

ときには魚をくちばしで突き刺してとらえることもあります。産卵期は4月から5月の初夏が中心。木の枝を集めたお皿のような巣をつくり50日から55日で若鳥は巣立ちます。双眼鏡などなくても、わりと簡単に見つけられる鳥です。

【連載】大師河原歴史抄

文 渡辺修策

五、多摩川治水と鈴木喜三郎（その二）

昭和初期、鈴木喜三郎という大師河原出身の傑出した政治家がいた。七五年以上も過ぎた今、知る人も少なく話題に上がることもないと思うが、政治家の資質が問われる昨今、その足跡を辿り人物像に触れてみたいと思う。喜三郎は慶應三年（1867）大師河原村の川島市大郎（富右衛門）・ゆきの次男として生まれた。川島富右衛門家は明治二七年、樹郡大師河原村漁業組合名簿に大師河原村大師河原七九九八、大正年間資料では、大師河原村塩浜、新浜組、屋号イタバシ（板橋）とその名が見られる。

喜三郎がどのような政治家であったのか、その足跡を辿り人物像に触れてみたいと思う。喜三郎は天台宗明一六歳の明治一五年（1882）天台宗明長寺住職・鈴木慈孝の養子となり家督相続、同年上京し東京外国语学校仏語学科、第一高等学校を経て同二一年（1888）帝国大法学科入学、同二四年仏法科を首席で卒業し司法省に入省。入省後は順調に昇進を続け、鳩山和夫長女カズ（鳩山一郎の姉）と結婚、明治四〇年（1907）四一年司法制度、裁判事務制度調査のため欧洲各国を視察、帰国後司法官時代の業績としては選挙違反事件摘発、監獄制度改革改善、出獄者保護事業の促進、少年法制定、判決執行の議員買収事件摘発、監獄制度改定年制実施、第一次世界大戦後の社会運動抑圧等が数えられる。次回に続く。

☆大師河原干潟館イベント情報

◆25年1月26日（土）だいし水辺の楽校

☆凧揚げ教室 13時～16時

持ち物：ハサミ、色マジック

マイはし、マイカップ（お汁粉あり！）

会 費：小学生以上200円

◆25年2月16日（土）だいし水辺の楽校

☆野鳥と野草の観察会 10時～12時

◆25年3月23日（土）だいし水辺の楽校

☆草つみと野草の天ぷら 10時～12時

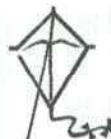
◎問合せ・申込み先

大師河原干潟館（水・土・日・祝） ☎044-287-7882

川崎市建設緑政局多摩川施策推進課 ☎044-200-2268

だいし水辺の楽校 www.tamariver.info/daishi

＜担当佐川 090-2492-5480



年末年始休館のお知らせ

◎年内最終開館日

12月26日（水）

◎年始開館日

2013年（平成25年）

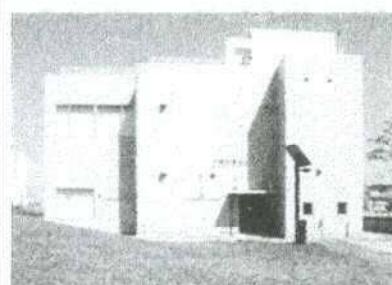
1月5日（土）

※12/27～25年1/4休館

今年一年間、たくさんの方が来館して下さいました。

2013年も色々な企画を提案していきます。50,000人来館も間近！！スタッフ一同皆さまのご来館をお待ちしております。

来年が素晴らしい一年となりますようお祈り致します。



大師河原干潟館（大師河原水防センター）

大師河原干潟館は、多摩川の自然や地域の歴史、河川防災などについての情報発信・環境学習の市民活動拠点です。多摩川初の河川防災基地・大師河原河川防災ステーション内にある大師河原水防センターの一部を利用し、市民グループで構成する運営委員会が管理・運営を行っています。

◆開館日／水・土・日・祝日 10:00～16:00

◆アクセス／京浜急行大師線「東門前駅」下車、徒歩7分

〒210-0811 川崎市川崎区大師河原1-1-15

※駐車場はございませんので、来館には公共交通機関をご利用下さい。

入館無料

生きものカードプレゼント中！



◆お問い合わせ（水・土・日・祝）／大師河原干潟館

Tel : 044-287-7882 Fax : 044-287-7883

◆お問い合わせ（平日）／川崎市建設緑政局緑政部多摩川施策推進課

Tel : 044-200-2268 Fax : 044-200-7703 Email : 53tamasu@city.kawasaki.jp

<http://www.tamariver.info/higatakan/>